

平成29年度 研究開発学校指定校事業研究協議会

2018. 1. 12(金)

# 研究開発実施報告

～「学びに向かう力」に焦点を当てて～



「一年生になったつもりプロジェクト」



「幼小接続部会」

岡山大学教育学部附属幼稚園

# 1 研究開発課題

幼稚園教育と小学校教育の接続を図るための幼児期に生活していくために必要な習慣や学びに向かう力との関連性の検討を含めた「考える力」の育成を重視する教育課程及び教育内容・指導方法の研究開発

## 2 研究の目的と仮説

### 幼児教育の動向

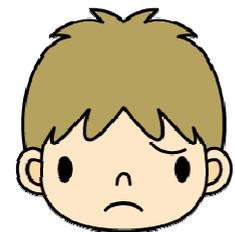
- ・非認知的能力を幼児期に身に付ける重要性
- ・生活経験の不足
- ・幼児教育と小学校教育の教育課程の接続

### 幼児の実態

- ・うまくいかないとやめてしまう。
- ・興味をもてないと話を最後まで聞こうとしない。

非認知的能力

聞く習慣



## 2 研究の目的と仮説

〈目的〉

主体的に取り組み，豊かな「考える力」を育む。



- 「学びに向かう力」を育てると**主体的に学ぼうとする意欲が高まる**。そしてより豊かな「考える力」を育むことができる。
- 「幼小接続期カリキュラム」に沿って実践を行い、「考える力」を育むことが、**幼小接続を円滑にする**。

# 3 研究の内容

## 研究の経過

1 年次…研究組織の整備（運営指導委員会・幼小接続部会等）

幼児の評価の視点の作成

2 年次…「学びに向かう力」の定義づけ

幼児の評価の実施（～4年次）

幼小接続期カリキュラムの作成

一年生の評価（追跡調査）の視点の作成

3 年次…追跡調査（～4年次）

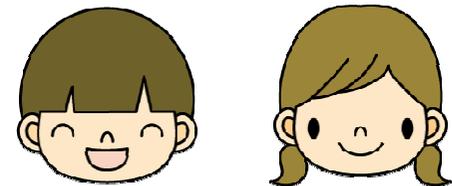
「生活していくために必要な習慣」の定義づけ

4 年次…教育課程の見直し

### 3 研究の内容

幼児期に育みたい「考える力」

遊びや生活の中でひと・もの・ことに関わり、自分のめあてを達成するために試行錯誤したり、友達や教師と思いを共有したりする力



### 3 研究の内容

幼児期に育みたい「**学びに向かう力**」

幼児を遊びに突き動かす，原動力



好奇心



自発性



挑戦意欲

協同性

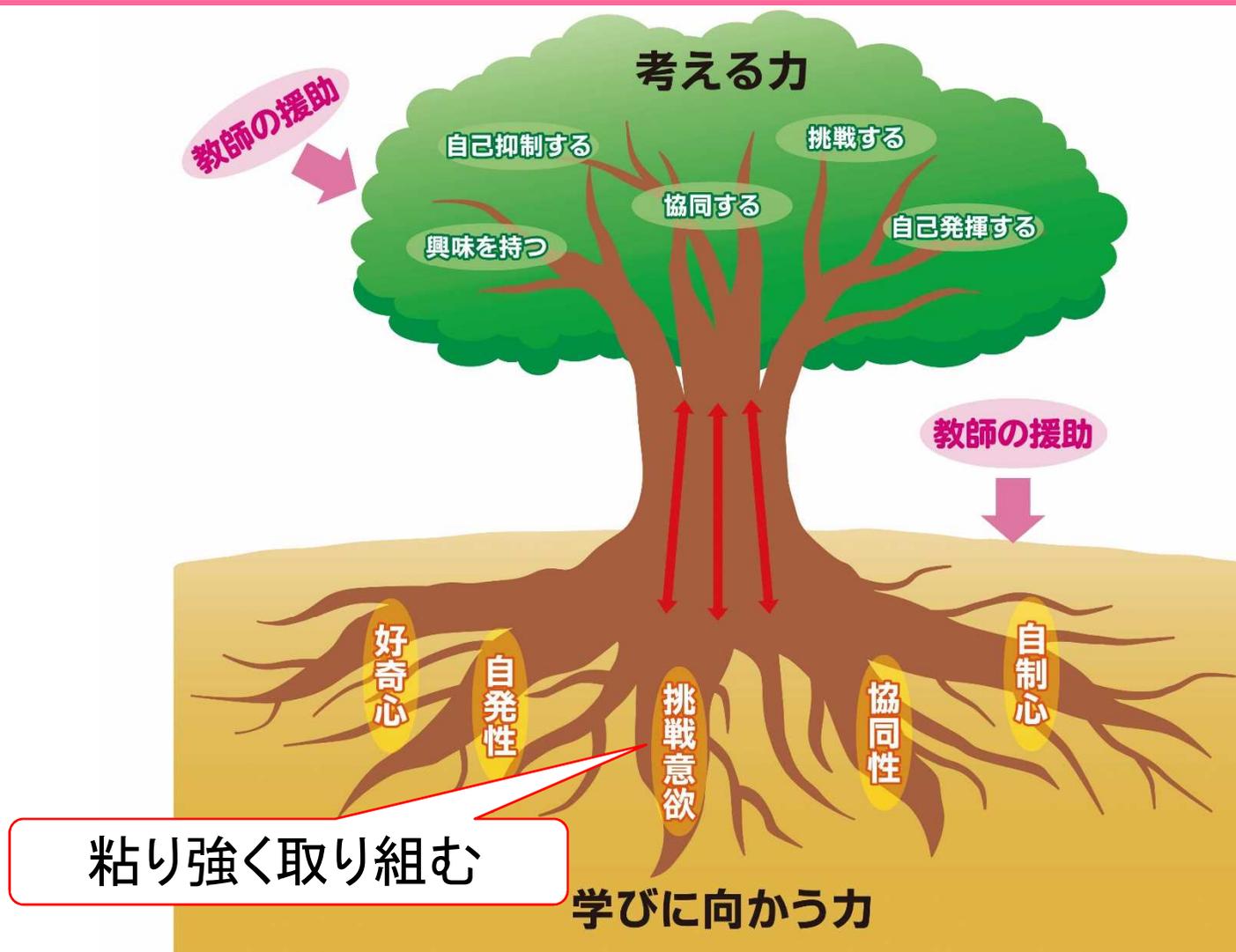


自制心



### 3 研究の内容

## 「学びに向かう力」と「考える力」との関係



# 3 研究の内容

## 挑戦意欲に焦点を当てた「学びに向かう力」の関係の仮説

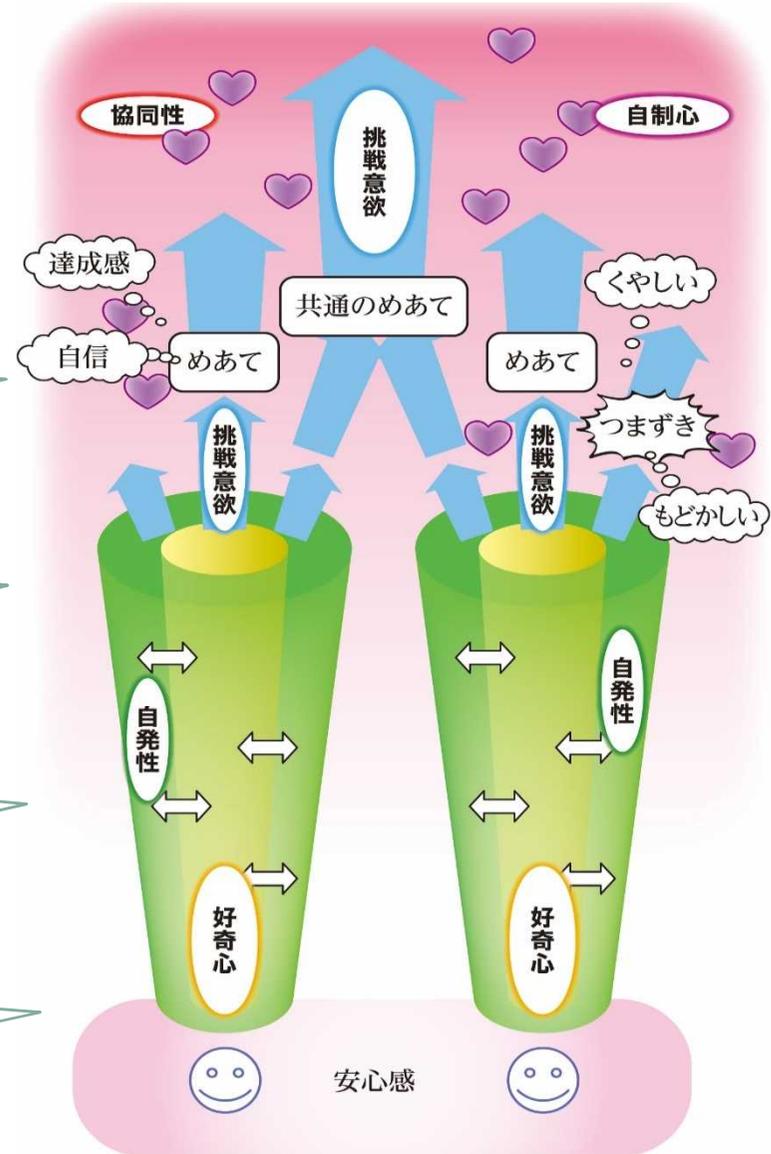
共通のめあてに向かって友達と考えや力を出し合おうとする**協同性**が育つ。

失敗しても諦めずに取り組もうとしたり、気持ちを調整したりする**自制心**も育ってくる。

めあてをもって取り組むことにより、ゴールイメージがはっきりし、**挑戦意欲**が高まる。

「何でだろう?」「してみたい」という思いが高まり、主体的に関わる (**自発性**)。

教師との信頼関係を基盤に**安心感**をもった幼児は、身の回りの事象に興味や関心をもつ (**好奇心**)。



挑戦意欲に焦点を当てた「学びに向かう力」の仮説的關係図

## 4 研究の方法

### ○園内の取組

- ・学びに向かう力の実践
- ・幼児期に生活していくために必要な習慣の実践
- ・日々の実践を意識したカリキュラム・マネジメント

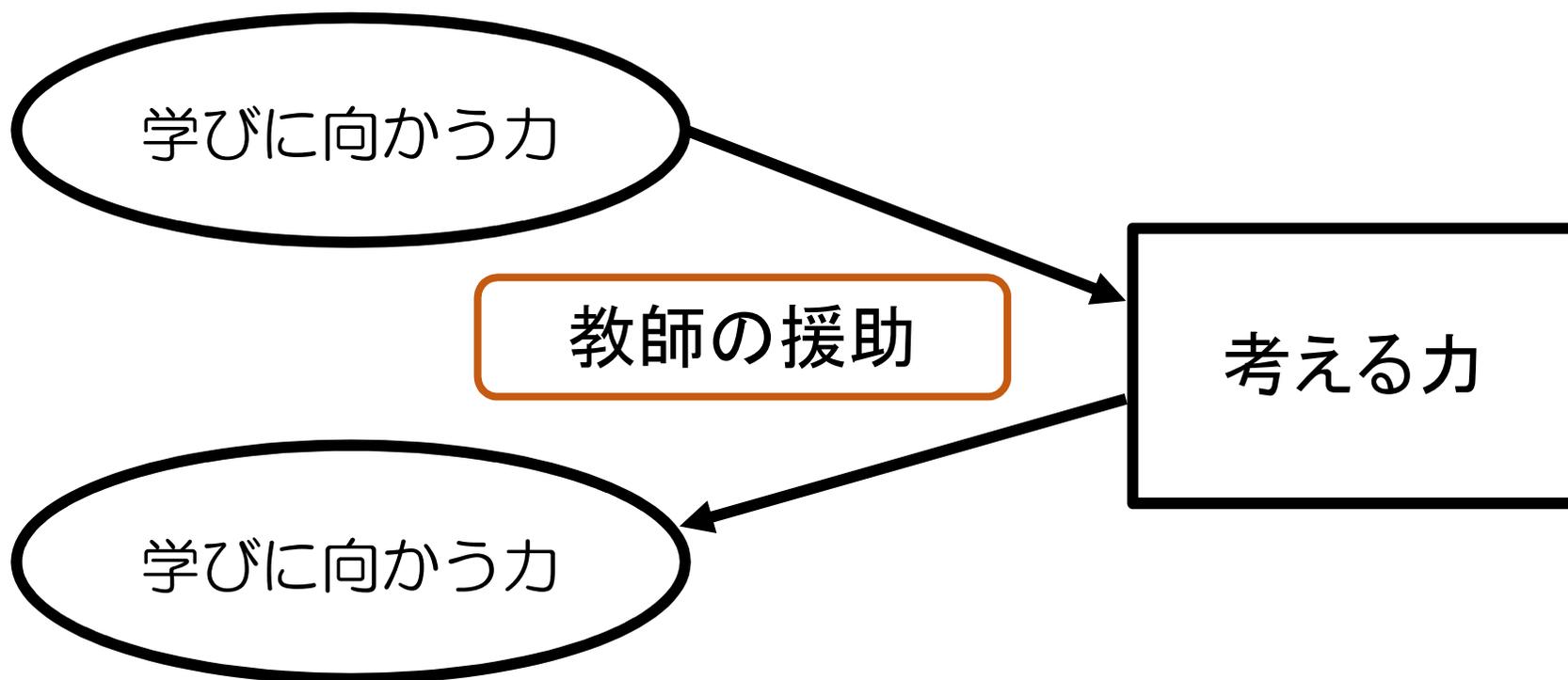
### ○幼小接続部会の取組

- ・一年生の評価の視点を  
作成
- ・追跡調査
- ・評価及び協議

「考える力」を育成するための  
教育課程の編成

# 5 実践

## 3年保育5歳児11月「走らせたい！」



# 5 実践

学びに向かう力

考える力

本物みたいに走る電車をつくりたい!

車輪があればよいと気付く。

車輪として使えそうなものを見付けたい!

自分の身近にある車輪を考えて友達と伝え合う。

電車づくりに使えそうな車輪を手分けして探そう。

- ・仲間として一緒に考える。
- ・考えたことについて理由を尋ね、周りの幼児に伝わるようにする

# 5 実践

学びに向かう力

考える力

これで、本物みたい  
につくれる！

製作ワゴンがよい  
と判断する。

出来上がったことを  
喜び、出発させる。

友達と役割を分担し  
ながら段ボールを  
切ったり貼ったりする。

一緒に探したり，見通しがも  
てるような声を掛けたりする

壊れた！！



# 5 実践

学びに向かう力

考える力

壊れても、みんな  
で大笑いする。

壊れる原因や仕組み  
を考える。

設計図をかこう  
とする。

設計図をかいて壊  
れた原因に気付く。

つくり直して丈夫な  
電車にしたい！

幼児同士で困ったこと  
を知らせ合ったり、解決  
策を友達と一緒に考え  
たりして、新たなめあて  
がもてる機会をつくる

# 5 実践

学びに向かう力

丈夫な電車をつくりたい！

厚くてちょうどよい高さの段ボールでつくろうとする。

考える力

みんなで考えを出し合い、壊れにくい電車のつくり方に気付く。

友達と共通のめあてをもって試しながらつくり続ける。

選んで使えるように、厚さや大きさの異なる段ボールを準備する。

壊れるー！！



# 5 実践

学びに向かう力

友達に知らせようとする。

今度こそ走らせたい！

全保育室に借りに行こうとする。

- ・見守る
- ・教師間の連携を密にとり、自由に使えるようにする

考える力

電車が壊れそうなことや原因に気付く。

車輪の部分だけがあればよいと見通しをもつ。



# 5 実践

## 考察

### 有効だった教師の援助と環境構成

- 幼児の願いを捉えた材料や用具の準備
- 幼児同士の考えをつなぐ仲介
- 意図的見守りやタイミングのよい声掛け

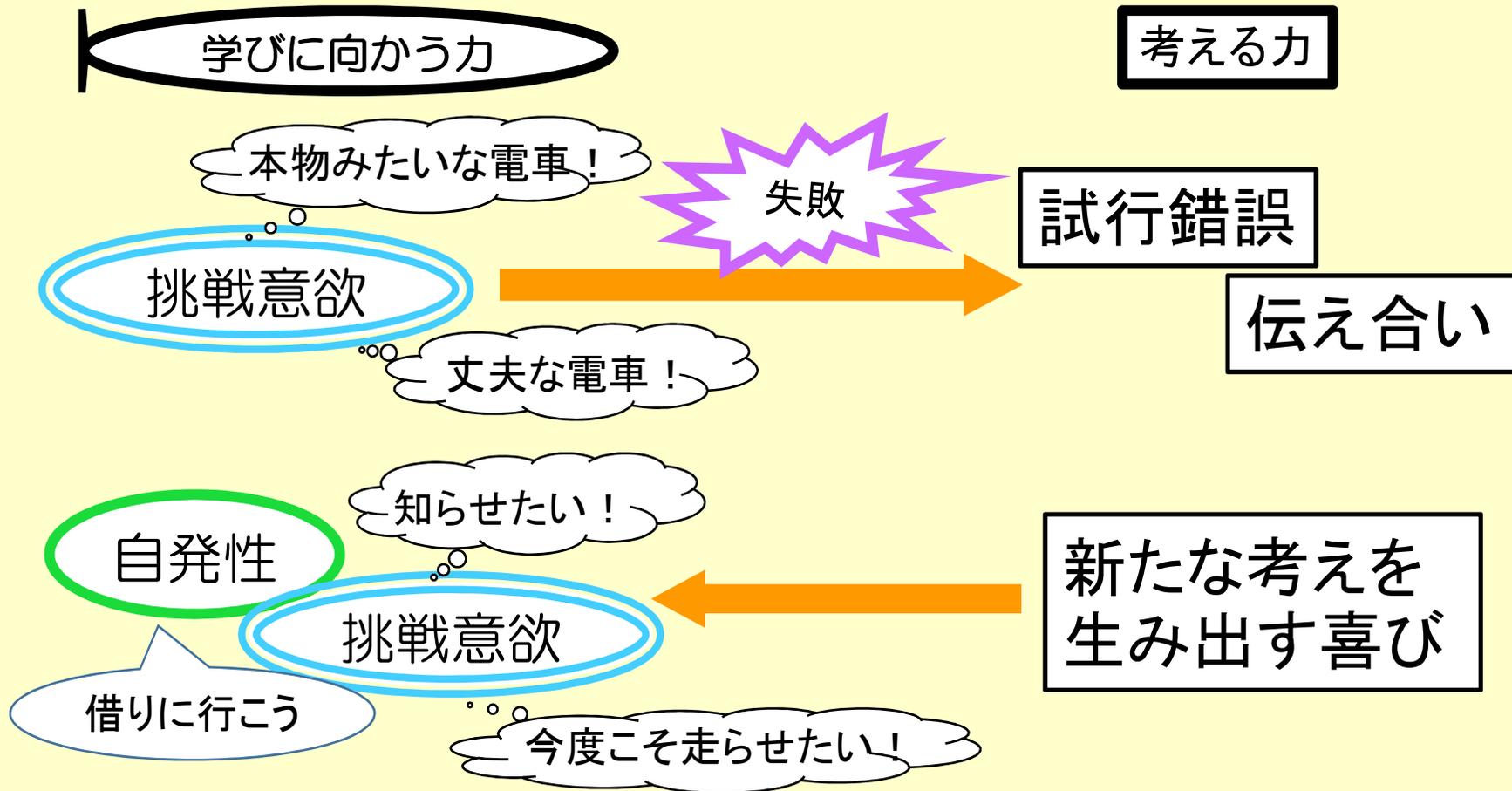


### 考える力の育ち

- 繰り返し試したり考えたりしてやり遂げようとする
- 友達と考えを伝え合い、力を合わせながら同じめあてをもって遊びを進める楽しさを味わう

# 5 実践

## 考察



「学びに向かう力」と「考える力」は、  
相互に影響し合い、豊かになっていく。

## 5 実践

### 幼児期に生活していくために必要な習慣

集団生活の中で身に付いていく  
習慣であり、**学びを支えるもの**

- (見通しをもって)生活を進める
- 聞く
- 話す
- きまりを守る

## 5 実践

### 「聞く」習慣



- 「好奇心」が引き出された場面で友達の話を見聞きし、取り入れる。
- 遊びの振り返りで友達の言動に興味をもち、新たな「好奇心」「自発性」が生まれる。

## 5 実践

### 「聞く」習慣



- ・ 試行錯誤する中で、**必要感をもって**周りの友達の言動を見聞きする。

# 5 実践



「学びに向かう力」と「考える力」と「幼児期に生活していくために必要な習慣」の仮説的關係図

# 5 実践

## 「考える力」の育成を重視した教育課程の編成

- 「学びに向かう力」の視点 (○)
- 「幼児期に生活していくために必要な習慣」の視点 (○)

資料 1-1 教育課程 (3年保育の概況)

※心算：(W) 「学びに向かう力」の5つの視点の表記

期	1-①		
月	4	5	6
その時期の特徴	園の環境に慣しみ、先生と一緒にいるいるなまものに慣れる時期		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新卒者もった持手道具を見た可なりしたりして遊ぶ。</li> <li>○新しい環境に慣れる。</li> <li>○先生に慣れ、みもら、先生の言葉の中へ遊ぶ。</li> </ul>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物の片付けの仕方、おやつのおべつ、便所の使い方等、園生活の仕方を知る。</li> <li>・室内外にいろいろな道具や器具があることに慣れ、解れて遊ぶ。</li> <li>・先生や言葉をしてくれる年長児に慣れ、みもら。</li> <li>・いろいろな道具の使い方や順番等のあることを知る。</li> <li>・したいこと、してほいたいことを先生に表現や言葉で表現しようとする。</li> <li>・園内の飼育物、生き物、草花に慣れ、みもら。</li> <li>・新しい環境に慣れ、自分の顔、印等、園での生活に必要なものや場所を知る。</li> <li>・手遊びをしたり歌を歌ったり、いろいろなものになたりすることを楽しむ。</li> <li>・砂や土等様々な素材に触れて遊ぶ。</li> </ul>		



## 5 実践 ～追跡調査～

### ①目的：

「幼小接続期カリキュラム」の妥当性の検証（育ち，指導方法のつながり）

### ②方法：対象児を視点に沿って評価する

○視点…「幼小接続期カリキュラム」

（平成27年度作成）

○対象児…小学校一年生（卒業児）15名

○評価者…幼稚園教員・一年生担任

○時期…5月・7月

# 5 実践 ～追跡調査～

## 「幼小接続期カリキュラム」 (5歳児10月～一年生1学期)

### 評価の視点の指標

校種・期	幼稚園・Ⅲ-A-① (10月～12月)	小学校・Ⅲ-B-① (4月～7月)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてやイメージしたことに向けて、試したり工夫したりしてやり遂げようとする。</li> <li>○自分なりの課題に向けて取り組み、達成感を味わう。</li> <li>○友達と思いや考えを伝え合ったり、励まし合ったりしながら活動を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な活動の中で、驚いたことや興味を持ったこと、感じたことたりしながら、小学校生活や流れを知る。</li> <li>○自分のしたことを話したりかいたりして、小学校生活で楽しむ、生活の見通しを持ったりする。</li> <li>○小学校や生活の流れで気付いたことを話し、新しい友達と一緒</li> </ul>
対象をとらえることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物を探したり集めたりする中で、色や形の違いや面白さに気付き、遊びに取り入れようとする。</li> <li>・遊びに必要なものを考え、試したり工夫したり、それに通した材料を選んでつくったりする。</li> <li>・数を数えたり、量を比べたりすることに興味を持つ。</li> <li>・連続した話に興味を持ち、場面を想像したり、続きを期待したりしながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象に興味を持ち、特徴や生活事象同士の違いに気に生かしたりする。</li> <li>・小学校の施設や生活に興味を持ち、自分なりに気付いて使っている。</li> <li>・形や色、数字や文字、音や図形等に興味を持ってかかわり、使った活動の楽しさに感動的に気付き、自分なりに考えたり使む。</li> </ul>
自己を見つめることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのことや少し難しいことにも繰り返し挑戦する。</li> <li>・友達同士で励まし合ったり、刺激を受け合ったりしながら頑張ろうとする。</li> <li>・状況に応じてやりたいことや物事の良し悪しを判断し考えて行動したりする。</li> <li>・遊びに必要なルールを理解し、守って遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のしたことや感じたことを話したり、絵や言葉でかいたり</li> <li>・自分のしたことやできたこと、次にしたいことを明確にして活</li> <li>・自分のしたことを振り返る中で、自分のしたことや考えの良さ</li> <li>・小学生になった喜びと自信から、意欲的に小学校の生活に取り組みたり、先生から認められて次への意欲を持ったりする。</li> </ul>
他者とつながることばの学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事象について気付いたことや考えたことを友達と伝え合う。</li> <li>・大勢の友達と遊ぶ中で、遊び方やルール等について互いの考えやイメージを伝え合いながら遊ぶ。</li> <li>・友達とめあてを共有し、競い合ったり一緒に遊びを進めたりして物事をやり遂げようとする。</li> <li>・友達の頑張りに気づき、認めたり励ましたり、かかわる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が気付いたことや考えたことを、先生や友達に言葉で伝え</li> <li>・先生や友達のしていることや話を見聞きしたり、質問したりす</li> <li>・初めての環境や集団の中で、友達と話したり考えたりして、考え</li> <li>・小集団の中で友達と分担したり力を合わせたりする。</li> <li>・友達のしていることや考えの良さに気付く。</li> </ul>

# 5 実践 ～追跡調査～

③評価結果：概ね「考える力」の育ちが見られた。

幼小教員の評価結果の比較

		評価の項目(幼稚園)		評価の項目(小学校)		平成30年	30年	31年	32年
対象	・ものやことの特徴に興味を持ち、遊びに生かそうとする。	①様々な生き物や自然に興味を持ち、特徴に興味をもつ。	13	5月	15	14			
	・自分なりのめあてをもって試したり工夫したりする。	②色や形、数字や文字、音や図形を使った遊びや運動の楽しさに興味を持ち、自分なりに考えたり試したりする。	14	5月	13	14			
	・遊びや生活の中で思いや願いを達成するための方法を考え、やってみる。	③試行錯誤しながら、自分なりにより良い方法を思いつける。	14	5月	5	13		15	
	・めあてやイメージを実現するために、比べたり考えたりすることでよりよい方法を思いつける。	④小学校の施設や用具に興味を持ち、約束を守って自分から使う。	14	7月		14			
				5月	8	13			
自己	・少し難しいことにも繰り返し挑戦する。	⑤めあての達成に向かって繰り返し行う。	14	5月					
	・めあてに向かっていろいろな方法で繰り返し試す。		13	7月					
	・自分のめあてを達成したことを喜び、次のめあてに向かって取り組む。	⑥自分のしたことや取り組む中で、自分のしたことや考えの良さを感じ、次の行動に生かす。	15	5月	4	14			
	・考えたことややったことを認められることで、自分の良さを感ずる。		15	7月		15			
		⑦自分のしたことや感じたことを絵や言葉などで表す。		5月	15	14			
	⑧自分のしたことやできたことを振り返り、次にしたいことを明確にする。		7月		15				
	・自分のめあてを達成したことを喜び、次のめあてに向かって取り組む。		15	5月	1	11			
			7月		12				

好奇心・自発性

挑戦意欲

- ・「好奇心」「自発性」に関する項目で多くの児童が評価を得た。
- ・「挑戦意欲」の項目では、7月には評価を得ることができた。

## 5 実践 ～追跡調査～

### 考察

- ・幼稚園で育まれた「好奇心」「自発性」が、小学校生活でも発揮され、育ちのつながりが見られた。
- ・「挑戦意欲」に焦点を当てて指導してきたことで、小学校生活の中でもめあてに向かって取り組む姿が見られた。



「幼小接続期カリキュラム」の妥当性を検証できた。しかし、「挑戦意欲」に関する評価の視点は、具体的な姿を改めて検討する必要がある。

## 5 実践 ～追跡調査～

幼稚園教員	小学校教員
<p>○A児は、園では自分から発言することが少なかったが、入学後は隣の友達と発表する意欲的な姿が見られた。</p>	<p>○発言が少なく、もっと自信をもってほしいと願っていた。しかし、園での様子を聞き、頑張っている様子が分かり、これからもA児なりの頑張りを引き出せるようにしていきたい。</p>
<p>○B児は、観察に行く際には意欲的な姿があまり見られにくかった。他の場面ではどのような様子か。</p>	<p>○好きな教科や活動では、自分なりのやり方や思いでかかわっているので、その姿を見取りながら援助していくことが大切だと考えている。</p>

- ・具体的な姿で評価基準や視点の共通理解を図る。
- ・一場面だけで捉えるのではなく、育ちの過程を丁寧に見ていく。

児童理解が深まった。

## 5 実践 ～追跡調査～

### 幼小接続の工夫

- 「挑戦意欲」「協同性」の視点で保育と一年生の授業を工夫する。
- 入学時に安心感がもてるような教師の関わりや幼稚園に近い環境を工夫する。



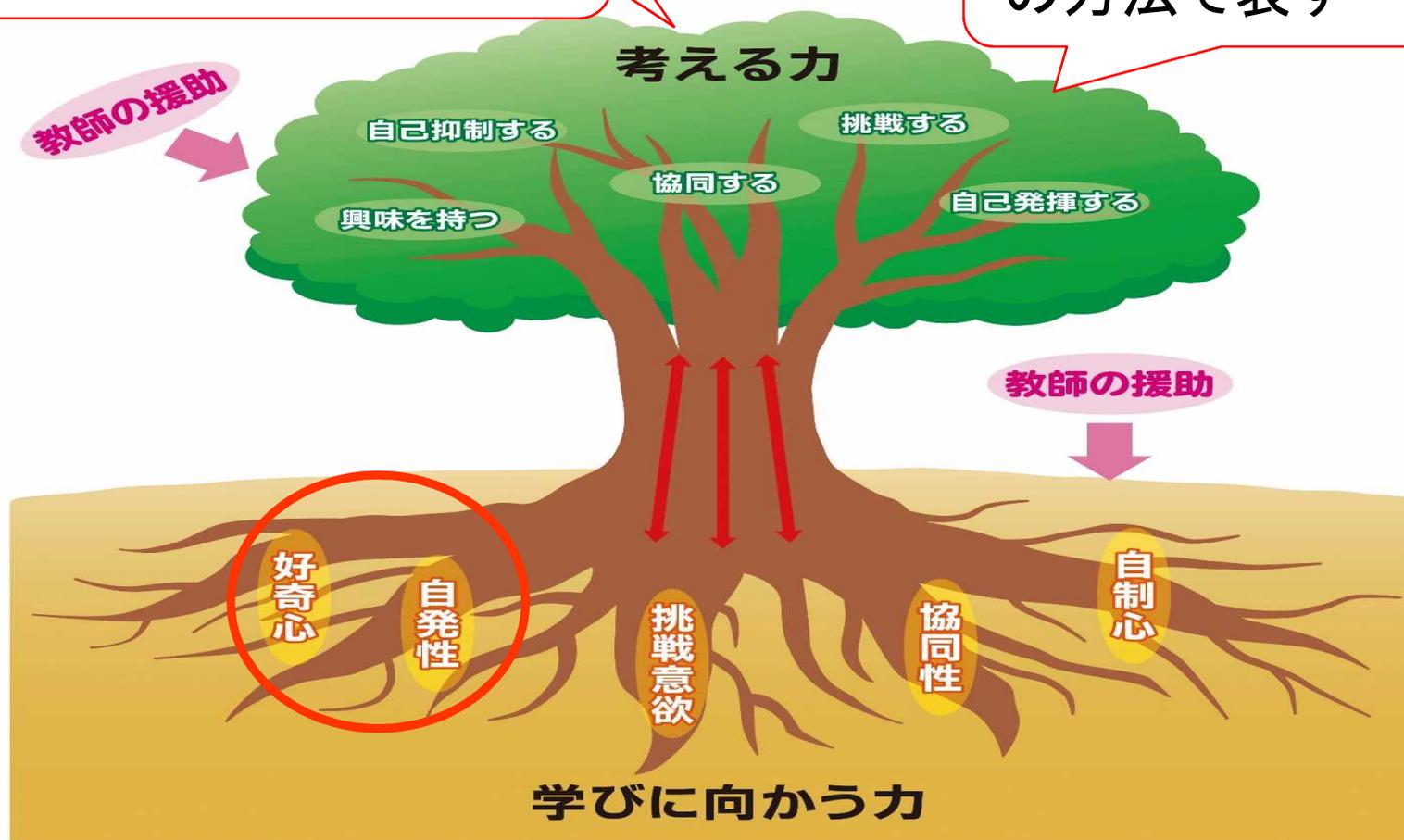
# 6 実施の効果

## (1) 幼児への効果

3歳児

やってみたいと思ったことに  
何度も関わって遊ぶ

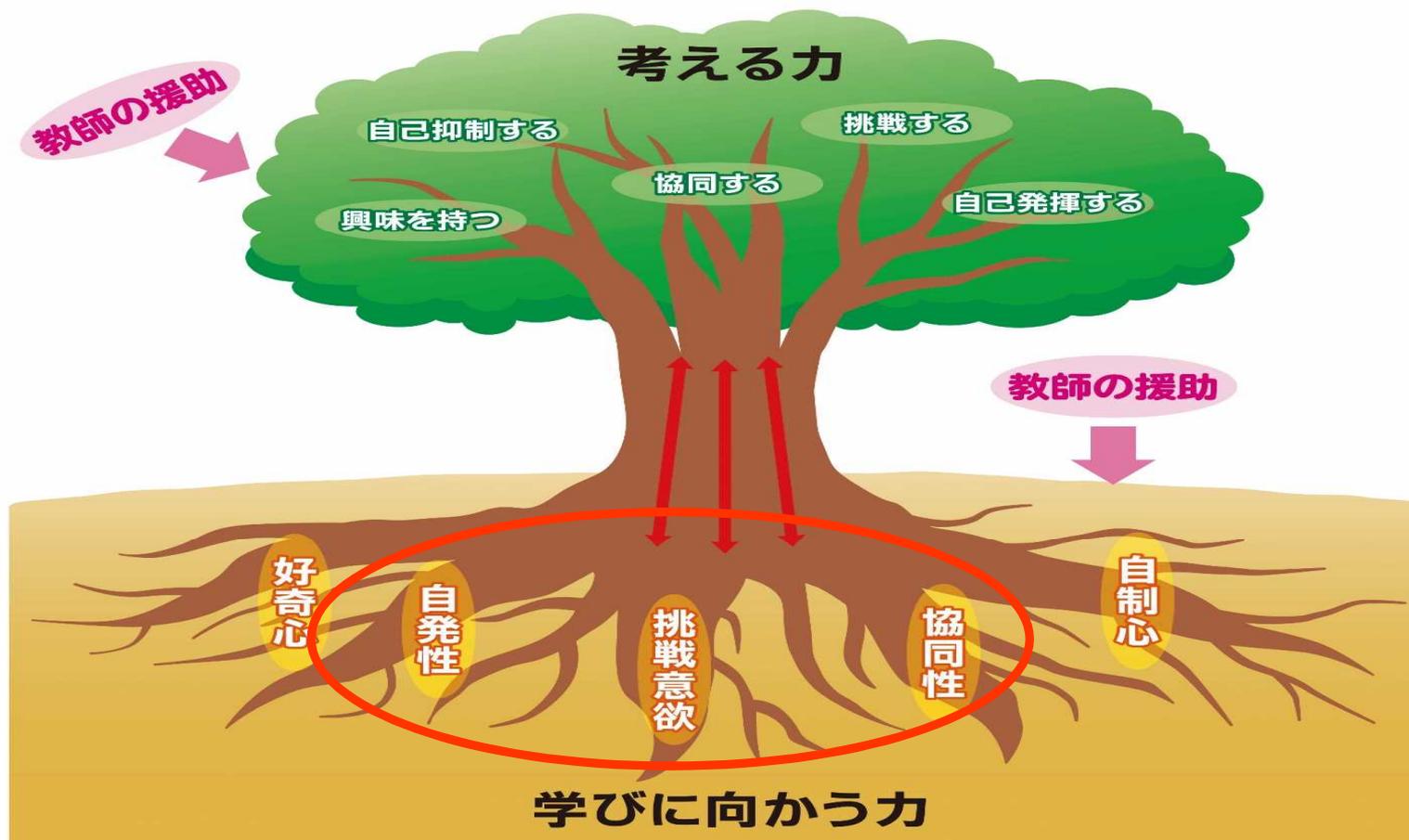
思いや考えを自分なり  
の方法で表す



# 6 実施の効果

4歳児

自分なりのめあてをもって思いを出し合いながら遊びを進める

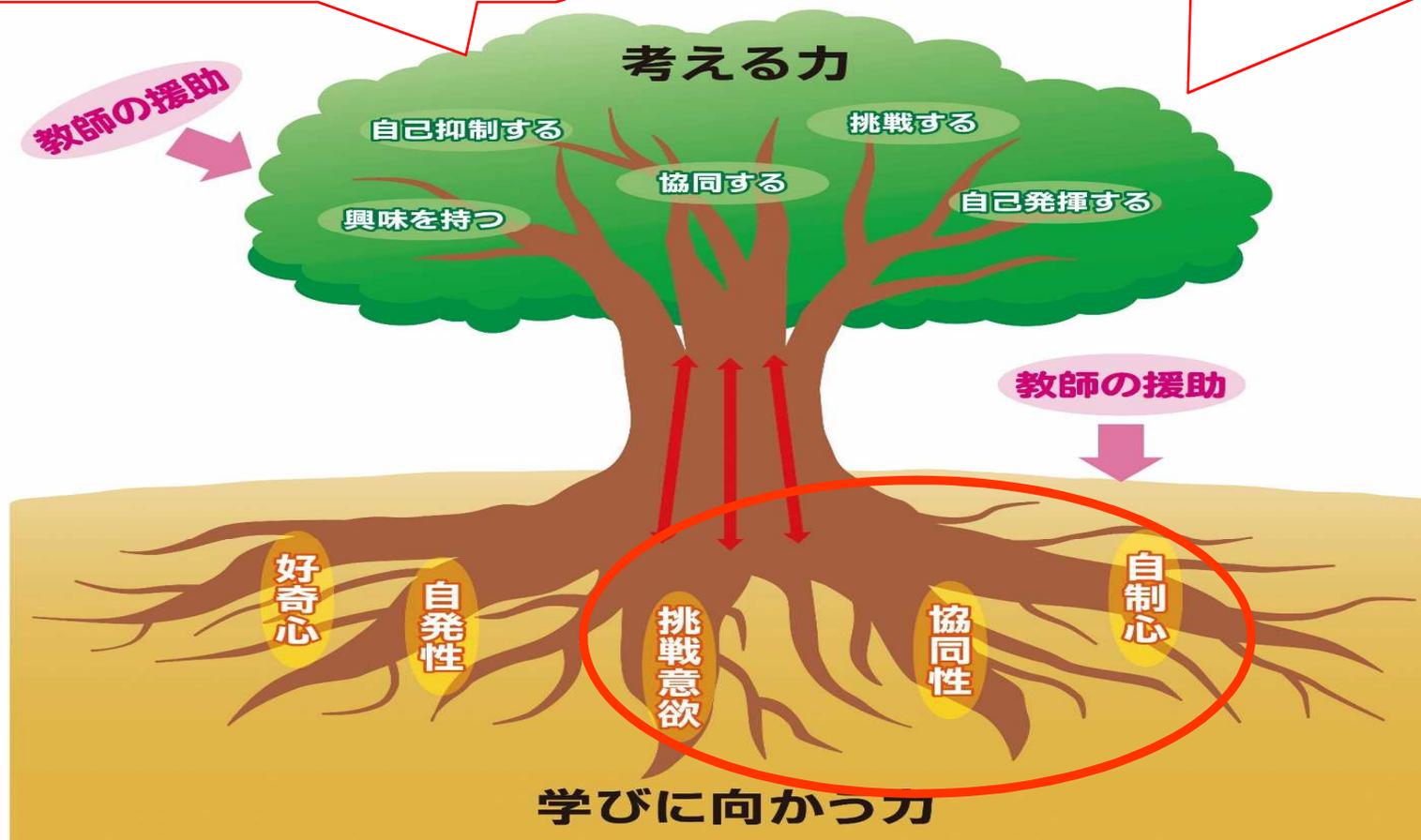


# 6 実施の効果

5歳児

最後まで諦めずに  
繰り返し取り組む

共通のめあてに向かい思い  
や考えを伝え、試行錯誤し  
ながら遊びを進める



# 6 実施の効果

## 3年間の5歳児個人の評価結果の比較

毎年計48名

評価の視点			H27年度	H28年度	H29年度
自己	⑦少し難しいことにも繰り返し挑戦する。	11月	38	36	37
		3月	44	44	
	⑧めあてに向かっていろいろな方法で繰り返し試す。	11月	39	26	45
		3月	45	43	
	⑨できない悔しさを感じながらも、最後までやり遂げようとする。	11月	29	18	32
		3月	42	45	
	⑩自分のめあてを達成のめあてに向かって ことを喜び、次組む。	11月	43	39	32
		3月	47	48	

目指す幼児像

○できない悔しさを感じながらも、最後までやり遂げようとする。

# 6 実施の効果

## (2) 教師への効果

### ○保育力の質の向上

- ・幼児の内面に目を向けた**継続的な幼児理解**
- ・**言葉を掛けすぎない**，意図をもった見守りや，  
タイミングのよい関わり(大学教員より)

### ○教育課程，指導方法等の改善

- ・各学年の重視したい視点について整理したこと  
による，**見通しをもった指導**

## 6 実施の効果

### ○教員同士の連携

- ・幼稚園の全教職員での話し合いによる**多面的な幼児理解や指導方法の改善**  
(こどもカフェ・あそびばカフェ)
- ・小学校教員と同じ視点で児童の育ちを捉えたり、児童の姿の**見取り方の違いを認めたりしながらの幼小連携**

## 7 実施上の問題点と課題

1. 「学びに向かう力」は内面的な育ちであり、**多面的に検証していく必要がある。**
2. 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を活用し、**幼小連携を深める。**
3. **各評価のねらいや評価方法を精選し、実践への還元**の道筋を考えて評価を実施し、**論理的・汎用的な評価結果の検証**を行う。

ご静聴ありがとうございました。



# 資料 指導方法の工夫

〈3歳児〉**安心感**・「**好奇心**」「**自発性**」

○**五感を通して対象のもつ面白さ**を感じたり全身を使って遊びたくなったりする**魅力ある遊び**を用意する。

○幼児の「**やりたい**」という気持ちを引き出すことができる遊びの精選や幼児の興味を捉えた環境構成を行う。

○幼児が**していることを自覚**することができるように、一緒に遊びながら、受け止めたり幼児が**していることを言葉に**したりする。

# 資料 指導方法の工夫

〈4歳児〉「**好奇心**」「**自発性**」「**挑戦意欲**」

○幼児が様々な体験を通して感じた疑問や戸惑い等を**解決しよう**と**自分自身でめあてをもつ**ことができるように、一緒に不思議に思ったり疑問を投げ掛けたりする。

○友達や教師に聞いてもらった嬉しさや認められた**満足感を味わい自信をもつ**ことができるように、具体物を活用しながら一人一人の取組を伝える機会をもつ。

○**自分の得意なことが生かせるような機会**をもったり、自分の思い通りにできないことへのもどかしさを感じている姿をしっかりと励ましたり見守ったりした。

# 資料 指導方法の工夫

〈5歳児〉「**自制心**」「**挑戦意欲**」「**協同性**」

○**共通のめあて**をもって仕事を進めたり遊びを進めたりすることができるように、**友達と考えを出し合ったり受け入れたたり**できる遊びの環境を用意する。

○活動の振り返りで、**めあてを共有し、友達と共に挑戦することができるように**、言葉を補ったりどうしたらよいのかを考える機会をもったりする。

○幼児の様子を見守りながら、**幼児自身が試行錯誤したり意欲を高めたり**できるように、周囲に声を掛けたり教師が目の前でしてみたりする等の間接的な関わりをする。